



今月のテーマ 『職業奉仕月間』

第1460回例会

2017年1月19日 Vol.31/No.24

■本日の例会 / 第1461回 平成29年1月26日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告……各委員長
- 会員卓話……川崎新一 会員、井上真由美 会員

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……………54名
- ・出席者 ……………40名
- ・欠席者 ……………14名
- ・出席率 ……………74.07%
- ・12/22の修正出席率…77.78%

■会長挨拶



副会長 三輪修珍

こんにちは。今月は職業奉仕月間です。先週冊子「職業奉仕とロータリーの魅力」が皆さんに配布されましたが、お読み頂きましたでしょうか？そこに「ロータリーの第一の基本的目的は職業奉仕であり人格の陶冶である」とあり、又「職業を一つの奉仕の機会と捉えるところにロータリーの価値観がある」とあります。ロータリーには「5大奉仕」がありそれぞれの分野における奉仕活動を奨励しております。入会が浅いとその言葉を聞いても良く意味が掴めませんが、今月の月信に大重ガバナーはガバナー訪問の時もおっしゃいました「『に』を入れて」と書いておられます。「職業奉仕」は「職業に奉仕」「クラブ奉仕」は「クラブに奉仕」ですね。そこで問題なのが「奉仕」という言葉です。日本のロータリークラブ初期には「サービスという言葉に適合する日本語がない」という事で英語のサービスを翻訳せずそのまま使ったと聞きました。もしかしたら当時の「サービス」という言葉と今使われる「サービス」と言う日本語のニュアンスが、時代のせいであまり違ったのかもしれませんが、現在は「奉仕」と言う漢字で表されています。辞書を見ますと「奉仕」とは謹んで仕える事となっています。「慎む」とは何かと又辞書を見ましたところ「用心する・気をつける・控えめにする」とあり「敬意を表して」と言う意味合いもあります。要するに「それぞれの分野に誠心誠意ベストを尽くしなさい」と言う事だと私は解釈しています。そうするとそこでの働きが回り回って結果的には自分にも社会にも貢献できると言う事です。私は自分の経験から「人の能力はチャンスを与えて開発すればすぐ出て来る」と思っています。きっと皆さんも社員の方々をご覧になってそう言う思いをお持ちの事でしょう。ただ残念な事に能力は皆等しくはあり

ません。分野・レベル等各個人で違います。ですから隣の人と比べる必要もないし無理をする必要もありません。自分を卑下する必要もありませんし、更には他人の事をとやかく言う事も慎むべきでしょう。「人は人、我は我」でしょう。自分として心懸ける事は、いろんな経験に努力し自分を良く知る事。そして昔から言われているように「足を知る」と言う事だと思います。他の人に対しては気を配り敬意を持って接すれば、行動の後に残るのは「そのチャンスを頂けたと言う感謝だけでは無いのか」と思います。昔人は同じではない、他人がいるからこそ自分と言う存在がある、自己実現のチャンスがあるわけです。ロータリークラブというとても良い自己研修の場を得られた事に感謝して、無理をせず、メンバー同士の友好の場としてのクラブライフを構築して行きたいと思えます。

■幹事報告

幹事 江藤敏治



皆さん、こんにちは。最近めっきり寒くなってきました。インフルエンザも大流行です。特に、今年は37度台の微熱で、関節が少し痛いという人からもインフルエンザが多数出ています。うがい、手洗い、今からでもワクチン遅くありません。幹事報告です。第16回ロータリー勉強会が3月8日ホテルマリックスであります。第4期RLI-2730パートIIが2月5日、地区クラブ研修セミナーが2月26日、鹿児島サザンウインドロータリークラブ創立20周年記念式典が4月22日に開催されます。どうぞよろしくお願いいたします。

■職業奉仕委員会

委員長 江口健一

先日FAXをお流しいたしましたが、2月9日(木)に職場訪問を行いたと思います。



[場所] シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート [時間] 例会終了後 多くの参加をよろしくお願いたします。

■ゴルフ同好会

副委員長 岡田圭史



宮崎中央ロータリーゴルフコンペを開催いたします。まだ参加が少ないようですので、参加をよろしくお願いたします。

2月25日(土) 宮崎カントリークラブ
スタート/8時21分

■2017～2018年度SAAは高橋誠司会員になりました。

■創立30周年記念誌発行 実行委員長 平沼正二



昨年実施しました当クラブ創立30周年記念行事に関し、記念誌がこの度発刊する事になりました。刊行するにあたっては、膨大な資料や写真など日高海雄会員並びに事務局の奥野さんには多大なる時間と労力を頂いたことに感謝申し上げます。ここ5年間における当クラブのあゆみ、取組み等、記載できたものと思っております。是非、ご覧いただければと思う次第です。

会員卓話

甲斐孝則 会員



昭和45年に工業高校の電気科を卒業しまして、同時に大阪の家電メーカーに就職いたしました。3ヶ月の研修が終わり配属先の決まる日に退職しました。まったく、次の就職先も決めてなかったのですが、会社の寮に1週間は居ても良いと言う事で、その間に新しい就職先を探すことになりました。その時に出会った第一生命の次長さんに、就職先を見つけて頂き決まるまで食事の面倒もみて頂きました。不思議な縁でした。荷物を新会社の寮へ運送屋さんをお願いして、入社初日を向かえましたが、社長が川崎の営業所に行かれるので同行してくれと言われ、挨拶そこそこで飛行機で行きました。初めて飛行機に乗ったと思います。これがきっかけで川崎営業所に赴任する事になりました。そこで約4年間、主に工業炉のプラント工事に携わりました。当時は工場の建設ラッシュで重厚長大産業の元気のいい時代でした。銅板や自動車エンジン、テレビブラ

ウン管等の焼き入れ焼き戻し装置のプラントでしたが、巨大な機械で長さが100mを超える物もありました。1年間は上司と同行し仕事を覚え、2年目からは静岡、富士南限とし北は青森までの本州がエリアで、電気の配線工事と試運転調整が業務でした。2～3ヶ月が施工期間で、終わるところになると、宿泊している旅館に次の現場の図面が届けられており、会社に帰ることなく次々と現場を渡り歩いていました。そのうち第一次オイルショックの影響で退職しUターンし、九電工にお世話になることになりました。敢えてお世話になると言いましたのは、入社試験に通らないと採用になりません。当時は中途採用の入社試験に辿り着くまでに時間がかかっていました。私は2年かかりました。それまでは臨時職員と言う形です。入社試験に合格しますと、最初は準社員からスタートします。準社員から正社員になるのに試験がありました。現在はこのような制度は無くなっているようです。営業部時代の部下は、有名大学卒の非常に優秀な人材が沢山在籍していました。就職の氷河期で特に文系は厳しい時代だったでしょう。

最後にこの40年間で得た教訓です。部下の育成は「経験の積み重ねと教育が両輪となって、与えられた仕事をこなしながら自分の仕事に誇りと、達成感を味わわせる組織が効率よく育成できる」。

会員卓話

長田 洋 会員



出会いに感謝

宮崎中央ロータリーの仲間入りをさせて頂き一年半が経ちました。お誘いくださった藤原会員とは、三十年弱のお付き合いになります。今まで、支えてもらうばかりで申し訳ありません。出会いに感謝・感謝です。これからも素晴らしい出会いが沢山あることを楽しみに精進致します。有難う御座居ました！

出席委員会報告

高橋誠司 委員

◆12/22 メイクアップ著名(敬称略)

井上真由美、押川統一郎、川崎 新一
黒木 陽子、新地 康宏、田中 寿
秦 喜八郎、日高 海雄、平松 寛
三輪 修珍、山田 知樹、湯浅 敏幸

発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30～13:30)
会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敬治